



機械工学センターの紹介



機械工学センターの役割

機構に所属する研究者が加速器開発や実験装置に使う機械部品が必要な場合に、**機械工学センター**に製作を依頼することができます。当センターは、旋盤、フライス盤、ボール盤、ワイヤーカット機、マシニングセンターなど、様々な種類の工作機械を所有しています。溶接作業も行います。当センターに所属する技術職員が、これらの設備と技能を駆使して、依頼された部品を製作します。年間の依頼件数は400件を超えます。ちょっとした工場くらいの規模です。13名の技術職員が所属しています。



新規採用の技術員の仕事は？

加速器や実験装置に使う部品の機械加工を担当していただきます。主に旋盤、フライス盤、ボール盤などを自分で操作して、部品を製作します。色々な工作機械の操作も順次、習得してもらいます。クレーンやフォークリフトの運転資格も取得可能です。依頼された図面を見て、自分でどんな機械や工具を使って製作するかを考え、作業できるようになるのが当面の目標です。もちろん、ベテランの職員が指導します。

メンバーの最若手は、2010年3月に工業高等専門学校で機械工学科を卒業し採用された技術員です。現在2年目ですが、多くの仕事を一人でこなせるようになりました。

求める人材は？

- ・ものづくりに興味があり、各種工作機械を使った機械加工に取組める方
- ・手先が器用な方、実験や実習が好きで学校で積極的に取組んだ方
- ・機械設計、特にCADにも興味がある方

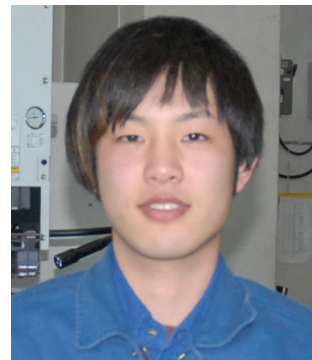




機械工学センター 技術職員の紹介

機械工学センターで、どんな仕事をしていますか？

加速器や実験装置に使う部品の機械加工を担当しています。主に旋盤、フライス盤、ボール盤、ワイヤーカット機を使っています。高専の工作実習の延長のような仕事です。ただし製作するものは多岐にわたり、ほとんどの作業を一人でこなし、最終仕上げまで行います。1年目は約100件の依頼業務をこなしました。



機械工学センター 技術員
岡田 尚起 2010年採用
都城高専 機械工学科出身

今までの仕事で苦労したことは？

図面を渡され、責任者から特に注意する寸法や形状を指示されます。その後は、自分でどんな機械や工具を使って製作するかを考えます。工具についての知識がまだ十分でないので、適切な工具の選定に苦労しています。また数ミリ角の小さな部品にM1.6のタップ穴をたくさんあける仕事がありました。この部品を40個作りましたが、タップが折れないように慎重に作業するため、とても疲れしました。それから音を聞いて仕上がりを判断しろと言われてはいますが、これが良く分かりません。もう少し修行が必要です。苦労もありますが、日々の作業を通して、新しい発見もたくさんあります。



高専で勉強したことで、仕事に役立っていることは？

設計製図と工作実習が役に立っています。製作する図面を見てもなんとなく分かりますし、旋盤は使ったことがあるので、問題ありませんでした。ワイヤーカット機でGコードを使ってNCプログラムを作成する実習の経験もあったので、こちらの機械の操作方法もスムーズに覚えることができました。工作実習が好きだったので、色々な部品を作る現在の仕事は、自分に向いていると思います。

休日の過ごし方・つくばの街は？

高専ではバスケットをやっていました。現在は、社会人のクラブに所属して、週2日、勤務後に練習をしています。休日には試合に出かけることがあります。その他の休日は買い物や家事をします。つくばは、きれいな街で大型のショッピングセンターもあり、買い物は便利です。あと社会人になってからスノーボードを始めました。



学生へのメッセージ

実習が好きなお人にはおすすめの職場です。エンジンの仕組みのようなメカに特別に詳しい必要はありません。機械工学科の5年間の勉強で十分です。専門的な知識は、仕事をしながら覚えています。一人で黙々と作業をするのが好きな人にも向いていると思います。